2013. 04. 01

# COOP-JOSO News Letter

**常総生活協同組合** 発行/副理事長 大石 tel 050-5511-3926 2012 年度活動テーマ 放射能に打ち克つ身体づくり 人々の協同で被災地復興と再生

発酵と復興 2年目

【ものづくり 人づくり 地域づくり】 特集 震災から2年 東北は今(5)

# 3/23 原発のない福島を! 県民大集会

私たちは これ以上 バラバラにされない わたしたちは これ以上 生きる権利を奪われない

# わたしたちはったいだ手をはなさない



#### 【呼び掛け人】

青木千代美(福島県女性団体連絡協議会会長)

小測真理(アウシユヴィッツ平和博物館館長)

片岡正彦(弁護士)

菅野豊(福島県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長)

園井常夫(福島県森林組合連合会代表理事会長)

熊谷純一(福島県生活協同組合連合会会長)

清水修二(福島大学教授)

庄僚徳一(福島県農業協同組合中央会会長) 取は持く短島県後世初日組合は各人の東西

野崎哲(福島県漁業協同組合連合会代表理事会長) 藤野美都子(福島県立医科大学教捜)

武藤類子(ハイロアクション福島)

山崎捷子(国際女性教育振興会福島県支部相談役)

吉岡棟憲(曹洞宗円通寺住職)

#### 私たちは訴えます!

- 口福島県では原子力発電は将来にわたり行わず、福島県を自 然エネルギー等再生可能エネルギーの研究・開発拠点とす ること。
- 口放射能によって奪われた福島県の安全・安心を国と東京電力の責任で実現すること。特に子どもたちを放射能から守ること。
- 口原発事故に伴うすべての賠償の実現と、県民の生活と雇用 の保障を実現すること。

## 【3/23 福島県民集会に7000名】

## 原発のない福島を!県民大集会に参加してきました

どうしてこんな苦しまなければならないのか・・・福島の方のお話しに何度も涙が

朝8時すぎに守谷駅から大型バスで土浦経由で福島市へ。県南からのバスは少し人数がさびしかったけれど、茨城からも大型バス3台で総勢150名。福島西インターを降りて、吾妻富士のふもと、あずま総合体育館へ。

大きな体育館は埋め尽くされ、1Fフロアに福島県民のみなさん、それを見守るかのように2F席には北海道から沖縄まで全国のみなさんが集まり、総勢7000名。会場はあふれ入りきらない。

大震災の犠牲者への黙祷、主催者あいさつに続いて、JA ふたばの専務さん、相馬双葉漁協の理事さん、平和大使で福島の状況を訴える女子高校生、森林組合の若い職員さん、旅館組合の理事長さん、県外避難者の大越さん、福島の子ども保養プロジェクトの平井さん・・・ひとりひとりの言葉に、なんともしようのない気持ちに。

福島の人たちがどうしてこんな思いをしなければいけないのか・・・そればかりが先にたって、ひとりひとりのお話しについ涙が。

2時間の終わりに、常総生協にも来て頂いて交流 した武藤類子さんが呼びかけ人を代表して閉会の お礼とあいさつをされた。

「わたしたちは つないだ手を はなさない」 そう、つないでいるよ。はなさないよ。 携帯に茨城の女性の仲間からメールが入った。 「ごくろうさまです。春早く、吾妻小富士の雪兎(種 蒔き兎)が鮮明ですから、お帰りに見上げてみて 下さい」

彼女は、ここ福島で吾妻の雪うさぎを見て育ち、 結婚されて茨城に。チェルノブイリ事故以来、原 発をなくす活動をされてきていた。福島事故後は 実家のあるふるさと福島に毎週通い、女たちのつ ながりをつくっている。武藤さんとも同じ高校出 身だったことが。

「集会がおわったら、女たちだけで集まり持ちます」

高速道路に乗ったバスの中から吾妻の雪うさぎを 見上げながら福島を後に。

二本松の有機農家が言っていたのを思い出した。 「千恵子は東京には空がないと言ったけれど、福島 にも空がなくなってしまった・・・」

生まれ育った土地の自然が放射能で汚染され、人も切り裂いてしまうこと、忘れられてゆくこと、取り残されててゆくことを肌で感じる中で、はり裂けそうになる気持ちを抑え、必死でくらしを立て直そうと、気持ちを立て直そうとするかろうじての叫びは、「手を離さないで・・・」。

原発はいらない。声を上げ続けます。



2Fには全国からかけつけたひとたちが埋め尽くした







体育館フロアを埋めた福島県民

#### 武藤類子さん、閉会のあいさつより

原発のない福島を県民大集会に遠くからかけつけて下さった皆さん そして県内から駆けつけた皆さん、それから壇上から発言して下さった皆さん 今日は本当にありがとうございました。そして長い時間お疲れさまでした 共に過ごした一日はとても意義深いものだったと思います。

私たちは今、雪のウサギが山肌に現れはじめた美しい吾妻の山の麓におりますが 春の訪れを心から喜ぶことはできません。 見えない・聞こえない・臭わない放射能を、この気持ちの良い早春の日にも忘れることができないのです。

#### 福島原発事故から2年

未だに1時間に1千万ベクレルの放射能を放出する原子炉いつ止まるかもわからない燃料プールの冷却装置 これからが心配される子どもたちの放射能による健康被害環境アセスメントもなしに作られようとしている廃棄物の小型焼却実験場振り出しに戻ってしまった子ども被災者支援法すすまない正当な賠償あらたなる放射能安全神話と莫大な復興予算の中に砂上の城と感じられる復興策の数々さらなる困難の中で私たちの疲れはピークに達しています。

しかしこの2年 生き延びるために、くらしを立て直すために、つながりを取り戻すために、 人びとには必死の努力がありました。

その一人ひとりの切なる努力が、いのちと未来のために つながり結実していくことを願わずにはいられません 立場や考え方の違いが攻撃や対立に向かうのではなく それぞれ気持ちを聞き合い、苦悩を分かち合いながら 共に冷静な目でこれからの道をみつけてゆきましょう。



吾妻小富士の雪ウサギ(種蒔きウサギ) 職員寺田撮影

私たちはまた、見極めなければなりませんいのちをないがしろにするもの生きる尊厳を奪うものわたしたちを引き裂くものは何なのか時に、自分自身にそれを問うことを恐れずにひるまずまっすぐ向かってゆきましょう原発はいらない放射能からあらゆるいのちを守ろうと声を上げつづけてゆきましょう。

東北は永く中央から虐げられた歴史がありましたが 一方で厳しくも豊かな自然に育まれた自由さが 人々の心に息づいていると わたしは思っています。 疲れた時は休みながら 今のこの困難からたくさんの事を学んでゆきましょう。

そして今日、みなさんと一緒に忘れずに心にとめておきたいことがあります。

わたしたちはこれ以上 バラバラにされない わたしたちはこれ以上 生きる権利を奪われない わたしたちは つないだ手を離さない

今日は本当にみなさん、ありがとうございました。

### 【「施策パッケージ」で振り出しに戻ってしまった子ども被災者支援法】 放射能から子どもを守ろう関東ネットのみなさんと共に

# 5度目の復興庁交渉に行ってきました



福島原発事故でホットスポットエリアになった茨城南 部~千葉東葛・埼玉地域の市民・団体がつながって、 放射能汚染・被ばくからこどもたちを守ろう、子どもの 健康調査と異常の早期発見・早期対策をと、「関東ネッ ト」が2月に正式発足。

昨年11月より、「福島原発事故子ども被災者支援法」 の関東エリアまでの地域指定や健康調査などを求め、 復興庁への申し入れ・交渉を重ねて、今回で5回目。

他方、市民から自治体への働きかけによって、茨城 では市長会が、千葉でも9市市長が国に意見書を提 出。復興庁へも申し入れも続きました。

ところが 3/15、復興庁より突然「施策パッケージ」 (右) なるものが発表され、その内容はこれまでやっ てきた施策を上げているだけで、健康調査もこれまで 福島県が実施している福島県民健康管理調査の域を 出ず、学校給食の継続的検査も同様、そして「汚染 重点調査区域」となっている関東エリアもまったく無視 された支援策が発表されました。

関東ネットで3/25、復興庁へ申し入れに行きました。 3 時間にわたって協議し、もう一度練り直しを求めてき ました。常総生協からは村井理事長、脱原発くらし見 直し委員会の稲垣委員が代表して参加しました。

#### 原子力災害による被災者支援施策パッケージ 主な取組の例

#### 1 子どもの元気復活 ~子どもの元気を復活させる先進的な取組

#### 子どもの元気復活

「子ども元気復活交付金」により、全天候型の運動施設などを新たに整備するほか、

autosaxはこさ初にに整備するほか、 「安心こさも基金」により大型遊具など を設置し、運動不足になりかちな福島県 の子どまが無数でよったった。 の子どもが運動できる機会を確保します。

#### 自然体験活動



#### 2 子どもの健康・心のケア ~健康不安に対して、安心を確保する取組~

#### 健康管理·健康不安対策

福島県民を対象とした外部被は、線量調査や18 歳以下の甲状腺検査等を実施します。 さらに、福島県での健康管理調査や福島県外 の甲状腺検査結果を活用し、福島県内外でリ スクコミュニケーションの強化等を行います。

#### 学校給食の放射性物質検査

学校給食において、食材は出荷段階での検査が行われていることを前提としつつ、 より一層の安全・安心を確保するため、 放射性物質の検査を実施し、その結果 をしっかりと公表していきます。



#### 3 子育で・生活環境の改善 ~健康不安に伴い生じた生活上の負担への支援

#### 母子避難者等の高速道路無料措置

福島県中海り・浜道の・宮崎県中海町7月県門 ・浜道の・宮崎県中海町から登戦されている母子・父子登難者の方を 対象に、避難先と避難元のそれぞ れの最寄りインターチェンジ間の 高速遊路料金を無料にします。

#### 借上住宅の期間延長

順上上でソン河の地路が 本年3月末までとされている借上住宅(民間賃貸 住宅等を活用した応急仮設住宅)の 供与期間を、全国で平成26年3 月末まで延長するほか、さらなる 延長に向けた検討も行います。



#### 放射能から子どもを守ろう関東ネット 参加 35 団体からの統一要請

- 「原発事故子ども・被災者支援法」の基本方針策定においては、茨 城県、千葉県、埼玉県において空間線量が2011年度1mSv/年を超えた地域、及びこれらの県で汚染状況重点調査地域に指定され た地域は必ず対象地域に含めること。
- 2上記の地域においては、子どもや妊婦の健康管理調査等を定期的に継 続して実施すること

健康管理調査などの内容

- ①甲状腺に係る検査 ②血液検査 ③尿検査
- ④心電図検査 ⑤問診の実施
- 3. 検査結果は所見を含む全てのデータを受検者または保護者へ渡し、 結果について充分な説明を行うこと。
- パッケージの拡充や基本方針の策定に際しては、その前に国の責任 で住民の意見を聞くためのパブリックコメント、意見聴取会などを 必ず実施すること。

#### 6/23 守谷で開催される「母親大会」 常総生協も実行委員会に参加します

ヒロシマ・ナガサキから5年。「二度と子ども たちを被ばくさせてはならない」と、戦後米ソの 大気圏核実験の中止を訴え世界的な運動に広げた 日本の母親大会。

その茨城県大会が、フクシマ原発事故による被 ばくホットスポット地となった守谷市で開催され ることに。

常総生協の組合員が現地実行委員長。生協とし て参加を決定しました。茨城県実行委員会の要請 を頂き、「特別分科会・・・子どもたちの被ばく と健康」を任されました。

生協内の脱原発くらし見直し委員会、平和の集

い委員会、さらに脱原発ネットワーク茨城や、放 射能から子どもを守ろう関東ネットなど、地域で 子どもたちの健康を心配され活動されている仲間 と共に、地域での母親たちの活動の報告を、そし て地域で子どもたちの健康調査の体制を整える呼 びかけをすることになりました。

現在、実行委員会にて企画案を検討しています。 実行委員会に参加・協力頂ける組合員、当日の お手伝いを頂ける組合員を募集します。生協まで ご連絡いただけますでしょうか。

> 現地実行委員長 丸町孝子 常総生協代表 村井和美